

◆特集 ハイブリッド病院図書館に向けて◆

院内LANを活用しての情報発信

熊谷 智恵子

はじめに

STM (Science, Technology, Medicine) 分野では、図書館資料 (以下、コンテンツ) が紙から電子的な媒体に変わってきている。病院図書館で扱う医学情報も、従来の紙媒体資料と多くの電子媒体資料 (電子リソース) が併存している。また、コンテンツのデジタル化によって、利用者行動パターンの変化や図書館間相互貸借 (ILL) の変化が報告されている。そのために、病院図書館では従来のサービスに加えて、電子化したコンテンツへのアクセス支援を求められている。

ここでは、(1)オンラインジャーナルなど電子リソースの増加が病院図書館サービスに与える影響、(2)洋雑誌価格高騰が図書館コンテンツに与えた影響、(3)デジタル医学情報利用者のための新しいサービスのひとつとして、メーリングマガジンによる利用者支援サービスについて報告し、今後の病院図書館活動の課題について考えてみる。

I. コンテンツをめぐる変化

現在、多くの医学系洋雑誌はインターネットを通じて、電子ジャーナル (オンラインジャーナル) として手に入れることができる。オンラインジャーナルは、出版と比べてタイムラグが少ないので最新の情報・文献入手が可能である。

雑誌によってはプリント版には目次あるいは抄録だけしか掲載されず、Web に全文掲載される e ページなどと呼ばれる会員だけがアクセスできるページがある。また、二次資料やレファレンスとのリンクが可能であり、研究コミュニケーションの重要性、情報流通の迅速性が要求される STM 分野においてオンラインジャーナルの優位性が発揮されてきた。

一方、バックナンバーの Web 化、契約終了後のアクセス保障、アクセス先がばらばらで自分の図書館のオンラインジャーナルを一元で管理できない、などは今後の課題として残っている。

1. コンテンツのデジタル化

オンラインジャーナルには、出版社が自社雑誌の分野と規模を基にパッケージ化して提供している出版社系と、ベンダーによって雑誌選択がされパッケージ化されたベンダー系、の大きく二つの提供のされ方がある。

データベース (以下、DB) では、PubMed、MEDLINE、EMBASE.com などの古くからある二次資料、あるいは国内の二次資料である医学中央雑誌 Web、JDream など、病院図書館で必要と思われる DB の多くは Web で利用できるよになっている。

この数年間に医学・医療分野に増えているエビデンスに基づく医学情報 DB の多くも Web で提供されている。また、最近ではテキスト・単行書もオンラインブックとして提供されるようになった¹⁾。

図書館コンテンツのデジタル化が進むと、利

KUMAGAI Chieko

虎の門病院図書室

kumagaic@topaz.ocn.ne.jp

用者は図書館に足を運ばなくとも、医局や自室から図書館が提供するコンテンツに容易にアクセスできるようになり、デジタル化されたコンテンツの提供は、利用者の利便性から図書館サービスの向上ともいえる。

その一方で、利用者がアクセス権のある利用者かどうかを確認するためのパスワード、IPアドレスなど認証ツールの管理、デジタル化された資料の使い方・アクセス方法等の指導、サーバメンテナンス情報の提供など、図書館利用者とデジタル医学情報を結びつけるための、利用者サポートが図書館担当者の仕事に加わった。

元来、図書館はそれぞれの施設の目的に合ったコンテンツの構築と整備を求められている。しかし、デジタル化コンテンツが増えた現在では、図書館は雑誌・図書・資料などコンテンツのストックの場としてだけではなく、利用者がインターネットなどを通じて目録・書誌情報、DBなどの多様なコンテンツにアクセスできるように、利用者の様々な情報要求に応えることができる場としての病院図書館：情報基盤としての病院図書館機能が要求されている。

2. 図書館サービス

こうした問題を解決するためには、図書館のホームページ、図書館内掲示、ニュースの発行、院内広報誌への図書館情報の掲載などを通じて、(1)図書館から積極的にコンテンツ利用のためのサポート情報を発信する。(2)ひとつのインターフェースで図書館がサービスする全てのコンテンツにアクセスできるようにする、いわゆるポータル必要性。(2-1)図書館のホームページから全てのコンテンツにリンクを張ることによって、ホームページを自館の医学情報のポータルとする(本来ならポータルとは、ひとつの入り口で全ての電子リソースにアクセスできる機能を備えたサイトを指すが、図書館が以下のサービスを準備することで、利用者はプチポータルサービスを受けることができる)。(2-2)利用できるオンラインジャーナルが少ない場合には、オンラインジャーナル一覧に URL のリ

ンクを張ったりリストを作り、利用者に配布し、利用者のデスクトップに置くことでオンラインジャーナルサイトリンク集となる。(2-3)多数のオンラインジャーナルが使える場合には、ポータル管理サービス(複数の代理店から提供されている)を使うことで、オンラインジャーナルのポータルができる。

また、PubMed LinkOut 機能を登録・利用することで、ポータルサービスのひとつとして、図書館サービスが充実する。

II. 洋雑誌価格高騰と図書館コンテンツ

病院図書館では毎年続く洋雑誌の価格高騰によって、これまでと同じ量のプリント版の購読を維持することは困難になっている。その一方で、オンラインジャーナルの普及によって、洋雑誌のプリント版をオンライン版に変える、プリント版を中止してオンライン版を購読するなど、メディアの変更が徐々に進んでいる。

オンラインジャーナルを利用するには高速インターネット回線が有利であるが、古い施設では簡単にインフラを整備できず、なかなか高速回線に切り替えができない。オンラインジャーナルは単独購入もできるが、多くは出版社、プロバイダー単位でパッケージ化されているために高額であり、予算の少ない病院図書館では購入しづらいといった問題がある。

1. B/H List からみた雑誌価格高騰

「Print Books and Journals for the Small Medical Library」は、1965年から2003年までの38年間、アメリカのMedical Library Associationが2年ごとに編集・発行していた、通称Brandon/Hill Lists(B/H List)と呼ばれる小規模病院図書館のための選書リストである。2001年19版まではプリント版で発行されていたが、2003年版はWebで読むことができる(<http://www.brandon-hill.com>)。

なお、Dorothy R Hill氏の引退に伴って今後は発行されないということである。雑誌メディア電子媒体に移行してきたことのひとつの証

Average cost / Journal subscription

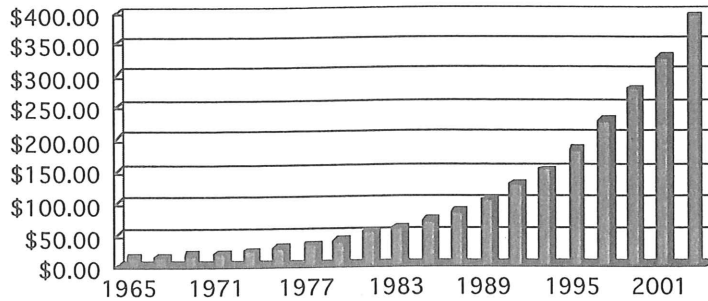


図1 洋雑誌 / 平均単価の推移 B/H List 2003

だろうか。なお、B/H List にはこの他に、保健科学系、看護系の選書リストがある。

図1は、1965年から2002年までのB/H List 収録雑誌 1 タイトル当たりの価格推移である。2003年版によると、1965年から毎年平均18%以上の値上がりがあり、1タイトルあたり購読コストは1965年の\$13.9から2003年は\$391.92に。B/H List 収録雑誌を購読するのに必要な合計額もうなぎ上りである。なお、同リストの収録雑誌数は、1965年は123タイトル、2003年は142タイトルと、収録タイトル数に大きな変化はない。

雑誌価格値上がりの要因として、掲載論文数の増加や発行部数の減少、電子化のための投資などが挙げられているが、図書館側としては購読予算を増やすことが難しいので、毎年いくつかのタイトルを中止せざるを得なくなる。洋雑誌価格の高騰に頭を痛めているのは日本の図書館だけではないようだ。これらの価格推移からコアな洋雑誌を所蔵し続けることがいかに大変か分かる。

2. 購読雑誌数推移

当室のプリント版雑誌は1997年以前まで増える傾向にあった。しかし、洋雑誌価格高騰などの影響で1997年以降は、利用統計やアンケートなどを通じて利用頻度の少ない雑誌、高額雑誌を中心にプリント版の購読を中止し、オン

ラインジャーナルに切り替えている。その結果、1997年から2004年の間に洋雑誌プリント版は約200タイトル減少した(図2)。

一方、1997年洋雑誌購読に伴うフリー・オンラインジャーナルの利用登録を開始した。その後1999年からProQuest、2002年からBlackWell Synergy、2003年からProQuest 収録誌増およびJournals@Ovid、2004年からSpringer LINK、Wiley InterScience (共にJMLAコンソーシアム)の導入を行っている。なお、2000年~2001年の2年間のオンラインジャーナルの急激な増加は、エルゼビアのプリント版を一定量購読している図書館に提供されたSD21(Science Direct)のフリー・オンラインジャーナルによるものであるが、SD21は2002年からはサービス停止となっている。

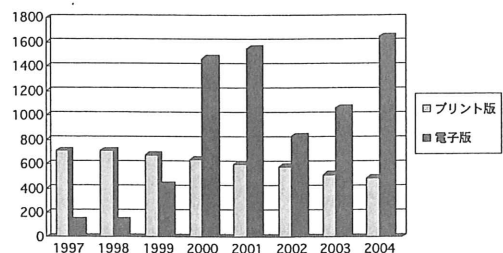


図2 購読雑誌数の変化: 虎の門病院 1997-2004

JMLA (日本医学図書館協会)の加盟館年次統計(1998年~2003年)によると、加盟館約

120 施設のプリント版洋雑誌平均所蔵数は、1998年の713タイトルから2003年は465タイトルと減少している。それに対してオンラインジャーナルの所蔵は、統計開始年の1999年は平均91タイトル、2003年は平均1,782タイトル、と飛躍的に増加している(図3)。

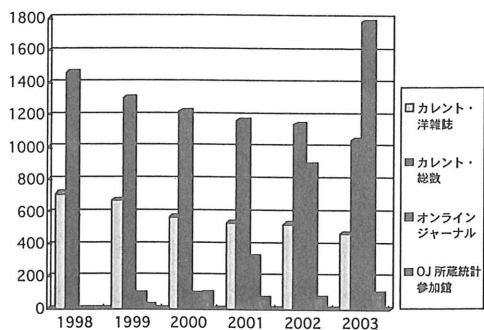


図3 購読雑誌数の推移: JMLA 年次統計 1998-2003

オンラインジャーナル所蔵の急激な伸びは、JMLA コンソーシアムなどでパッケージとして提供されるオンラインジャーナルが多いこと、プリント版洋雑誌価格高騰によってプリント版を中止してオンラインジャーナルに切り替えているためと思われる。なお、調査期間のJMLA加盟館数に大きな変化はないが、オンラインジャーナル統計参加館は1999年の25館から2002年の99館と増えている。

当室およびJMLAの所蔵統計推移から、多くの施設でプリント版洋雑誌の購読を止めてオンラインジャーナルに切り替えていることが分かる。

3. オンラインジャーナルとILL

当室の1991年から2003年までのILL業務推移によると、オンラインジャーナル購読増加にともなってILL外部依頼件数の伸びが治まっている。その一方、NII(National Institute of Informatics)のNACSIS-CATへの参加によってILL受付が増えている。

大学においても、JMLA加盟館統計にオンラインジャーナルの項目が加わった1999年以降、ILL依頼総数および受付総数が減少しており、

オンラインジャーナル所蔵の増加がILLに影響を与えているようである。また、ある大学図書館における短期的な調査でも、オンラインジャーナル導入がILL申込み件数の増加を抑えているという報告がある²⁾。

オンラインジャーナルには、プリント版には印刷されないでWeb上にだけ記事があるeページ、electronic only pagesなどと呼ばれるものがある。例えば、CirculationではCirculation Electronic Pages、HeartではeHeartと呼ばれて、プリント版には論題や抄録だけが掲載され、本文・全文はWeb上にだけ掲載されている。このようなeページはILLで簡単に入手できるだろうか。

従来、ILLネットワークに参加する図書館では、所蔵雑誌を目録に登録し、相互利用を行ってきた。オンラインジャーナルは出版社との契約によってILLの対応(プリントでのILLは可能だが、メールなど電子媒体での対応は不可、など)が決まっている。また、オンラインジャーナルのILL対応は手間がかかるので提供しないという参加館もあり、現状では一部の所蔵館が目録情報に登録しているだけである³⁾。

一方、病院図書館研究会の2001年度現況調査⁴⁾によると、病院図書館が大学図書館に文献複写依頼をしている割合は複写申込み総数の約50%となっている。また、オンラインジャーナルの受入れ施設は、現況調査参加111施設中12施設、平均82(中央値4.5)タイトルである。この状況下で今後も大学図書館のオンラインジャーナル占有率が増え、ILL対応参加館が増えない場合には、病院図書館だけでなく大学も含んだILL問題のひとつとなるだろう。

III. メーリングマガジンによるWeb情報サポート

2001年9月11日ニューヨークWTCビルの同時爆発テロによって、同ビルにあったCurrent Contents Connect: CCC (ISI社)のIT Hubが破壊・停止した。次の日ISIから

メールでアクセス不能であると連絡が来たので図書室内にその旨掲示をした。しかし、CCC購読者は電子リソースの積極的な利用者で、自分の PC からコンテンツにアクセスしているために図書館には毎日足を運ばない。そのため、何人もの利用者から「CCC にアクセスできない」と電話で問い合わせがあった。院内の利用者に即時に連絡できなかった経験、電子リソースの脆弱さ、サポート体制が不足だったことを痛感し、翌 10 月からメーリングマガジン：*Library News Magazine* と名付けて、配信を開始した。

突発的な事故が契機で始めたメールによる情報発信であったが、電子リソースの増加によって図書館に来館しない利用者が増えていたために、新たな広報手段が必要な時期でもあった。その一方、インターネットを積極的に使わない医師、職員もいるので、必要な都度院内の全部署・全医師に配布する「お知らせ」、室内への「掲示」などはこれまで通りおこなっている。

1. メーリングマガジン

メーリングマガジン (MM) はインターネットを通じて電子リソースを積極的に使う図書館ユーザーを対象にし、A4 サイズ 2~4 枚程度の記事とし、不定期で希望者にだけ配信している。購読の申込みは、図書室宛にメールで件名欄に「購読希望」と書き、本文に所属・氏名を書いて送ってもらう。購読者管理には Outlook のアドレス帳にグループ登録し、配信には BCC : (Blind Carbon Copy) を用いている。MM 購読募集は新年度開始時に図書室発の案内・ニュースに掲載するほか、常時最新の MM をプリントして図書室内に複数部数掲示しておき、誰でも持っていけるように案内している。また、電子リソースについて質問、問い合わせを受けた場合にも購読を勧めている。

記事は、購読者のニーズに合わせて Web 上のコンテンツ利用のサポートを目的としている。MM 記事と紙媒体の案内・お知らせ記事内容は重複するものがある。

開始当初はメールにワード文書の添付ファイルとして配信していたが、現在は PDF 化した文書で配信している。これまで虎の門病院の読者を対象に 8 号まで発行した。なお、当室の運営母体である連合会各病院向けには、オンラインジャーナルや二次資料などのサービスの違いがあるために、連合会各病院のサービス内容に合わせて別バージョン MM を作成し、図書室 HP に掲載している。

2004 年 6 月末の購読者数は約 80 人、購読者の 96% が医師。常勤医師の約 60%、レジデントの約 20% が登録者となっている。他に非常勤医師、薬剤師も購読登録をしている。所属科による登録者の割合は、内科系の医師の割合が高く、外科系では低くなっている。

2. メーリングマガジン記事

2001 年 10 月から 2004 年 6 月までの図書室発行の案内・お知らせ記事の内容は延べ 53 件であった。そのうち、MM 記事およびメールによる緊急情報など 39 件 (74%)、これまで通りプリントした紙媒体での案内・お知らせは 14 件 (26%) と、メールを通じての情報発信が多い。なお、プリントでの情報発信内容はオンラインジャーナルに関するものが多く (64%)、DB については僅か (14%) であった (図 4)。

MM の記事内容は、DB (53%)、オンラインジャーナル ((21%) と、計 74% が電子リソースに関する記事であった。他にホームページ、PubMed LinkOut、パスワード、目録作成・配布、緊急情報 (サーバメンテナンス、ポータル案内、訂正など) などがある。

DB 記事は文献検索のコツなどの具体的な説明が多く、PubMed (38%)、日本語文献検索 (24%)、個々の DB に関する説明 (14% : 例えば UpToDate の説明、Cochrane Library の機能に関する説明、MD Consult の Reference Book について等) となっている。

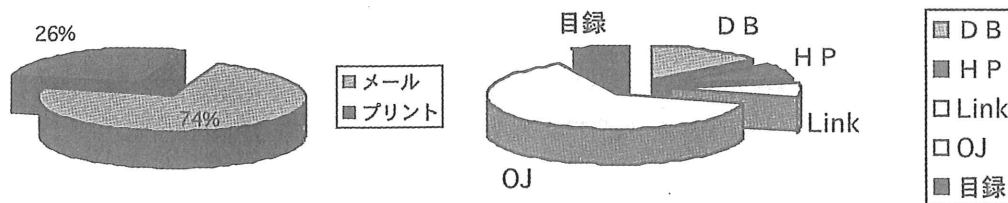


図4 図書室発のニュース 2001.10~2004.06

一方、オンラインジャーナル記事では新規購読開始時の説明記事が50%、他はオンラインジャーナルのサイト総合案内、フリー・オンラインジャーナル情報などとなっている。

以上から、現状では図書室発の情報はメールを通じての情報発信が多く、MM購読者の多くは電子リソースの積極的な利用者であることから情報サービスを十分に享受していることが分かる。その点、MMの未購読者には十分な情報が行き渡っていないことも考えられる。今回の分析を通じて考えさせられた点であった。

MMを通じて図書館からの情報発信システムを作っておくことで、サーバ停止情報やホームページ更新案内など緊急情報を送ることができる。その結果、図書館と利用者の距離がより近くなり、メールや電話での問い合わせも増えている。今後はアンケートなどを通じて利用者の希望を積極的に取り上げることでより身近な図書館を目指している。

おわりに

オンラインジャーナルなど電子リソースの導入は、病院図書館コンテンツの充実果たす役割が大きく、ILLにも影響を与えている。洋雑誌価格高騰に対抗してコンテンツの充実を図るためには、出版社・ベンダー主導で提供されているオンラインジャーナルを見直し、病院図書館コンソーシアムを検討することも必要である。利用者の文献要求に応じて自館にない資料を円滑に入手し、病院図書館の特徴ある蔵書構成を

広く国民の健康のために提供するためにも、NACSISのような大きなネットワークに入ることも必要になってきている。

電子リソースが増えて来館しない利用者のためには、新たな広報手段として院内LANネットワークを利用してメールを利用した図書館サービスが有効である。

病院図書館は今後、様々なサービスを統合する情報基盤としての図書館を目指し、積極的な情報発信・広報を通じて、利用者に見えやすい図書館となることことができる。

(本稿は、第11回日赤図書室協議会での講演に加筆したものである)

参考文献

- 1) 熊谷智恵子：デジタル化と病院図書館. 日赤図書館雑誌 2002 ; 9(1) : 24-27.
- 2) 小林晴子、坪内政義：電子ジャーナルが図書館サービスに与える影響. 医学図書館 2003 : 50(3) : 218-225.
- 3) 宇野章男、伊藤茂樹：電子ジャーナルの相互貸借利用：アンケート結果に見るその問題点. 医学図書館 2004 ; 51(2) : 147-151.
- 4) 病院図書室研究会：第5回現況調査報告 平成13(2001)年度. ほすびたるらいぶらりあん 2002 ; 27(4) : 353-366.